

「集落元気づくり」に向けた考察

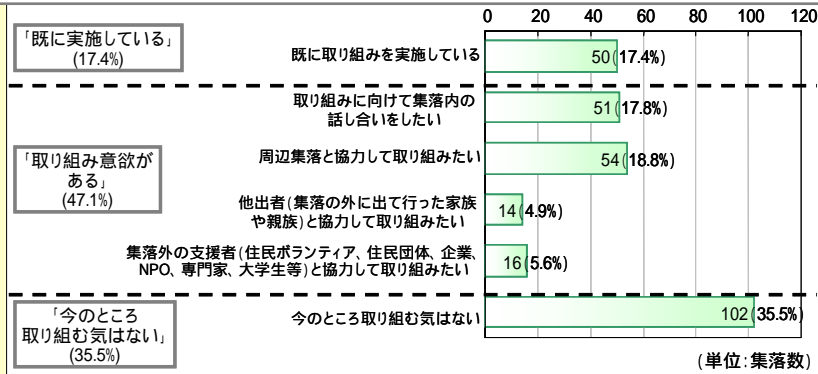
調査を実施して判明した事項

取組に向けた集落の意向

「集落元気づくり」への取組に対し、集落代表者に対するアンケート調査を実施したところ、「取組意欲がない」との回答が小規模・高齢化集落や居住継続意志の低い集落において多くあった。そのため、これらの集落に対する配慮が必要である。

「集落元気づくり」に向けた取組意向

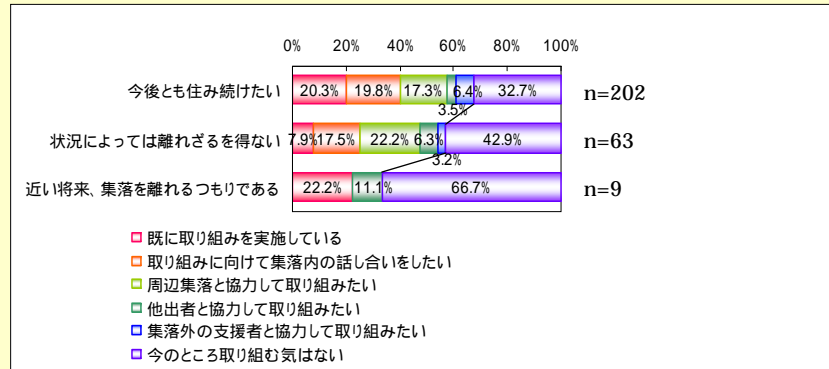
「集落元気づくり」に向けた取組を「既の実施している」との回答が17.4%となり、「取組意欲がある」との回答が47.1%、「今のところ取組む気はない」との回答が35.5%となっている。



資料：「H20年度持続・再生集落アンケート調査」国土交通省資料

「集落元気づくり」に対する取組意向 (居住継続意志)

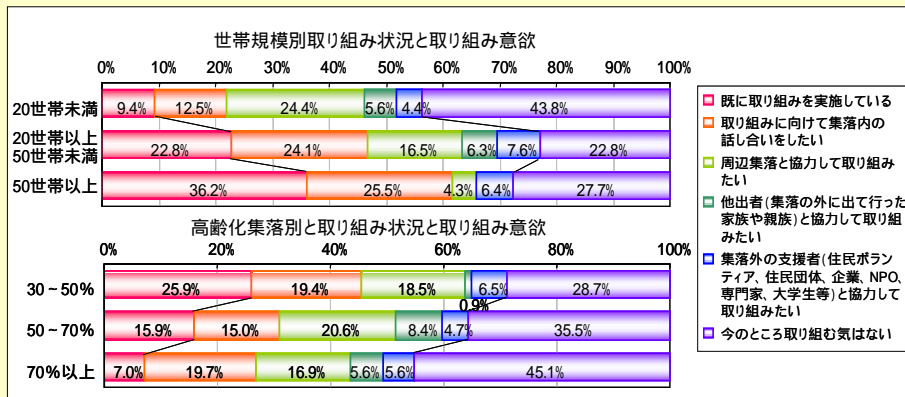
居住継続意志が低くなるほど、「集落元気づくり」への取組意欲が低くなる傾向にある。



資料：「H20年度持続・再生集落アンケート調査」国土交通省資料

「集落元気づくり」に向けた取組意向 (世帯規模・高齢化率)

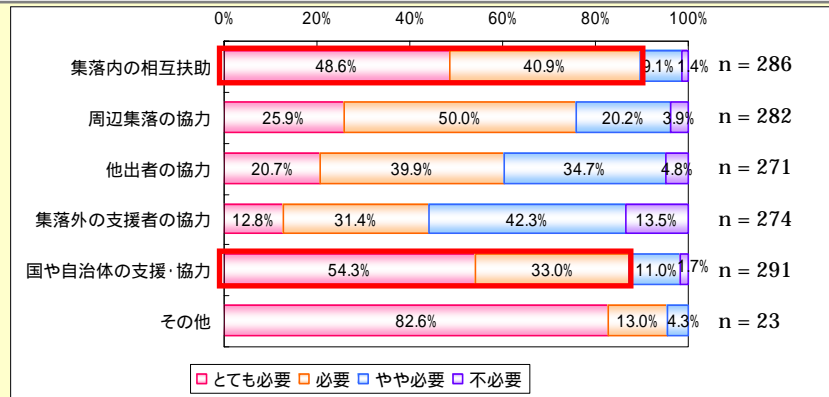
世帯規模が大きくなるほど、「既に取り組みを実施している」の割合が高くなっている。小規模で高齢化率の高い集落ほど「集落元気づくり」への取組意欲が低い傾向にある。



資料：「H20年度持続・再生集落アンケート調査」国土交通省資料

今後居住を継続する上で必要な支援体制

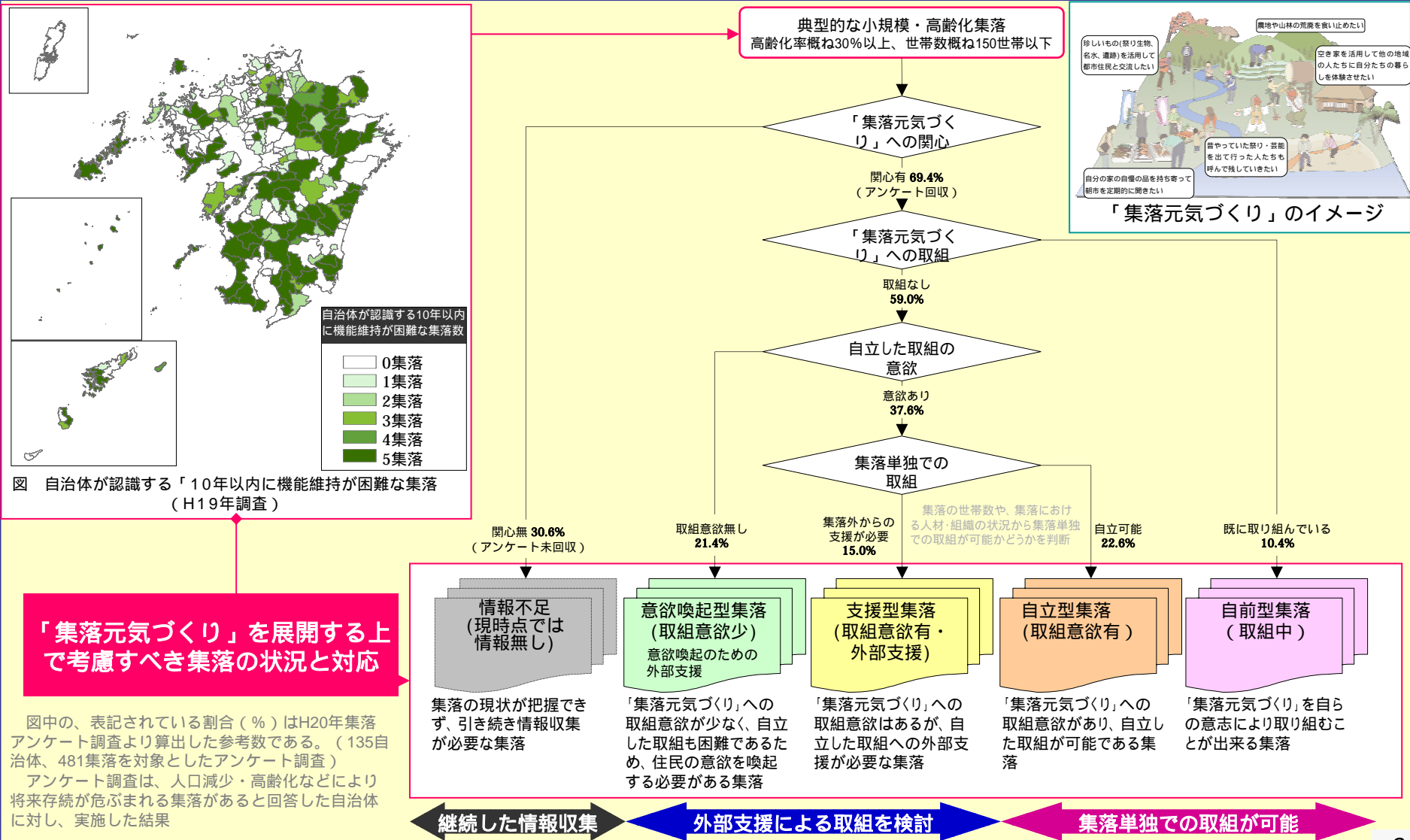
「集落の相互扶助」、「国や自治体の支援・協力」は、「とても必要」、「必要」との回答が、合わせて約9割を占める。



資料：「H20年度持続・再生集落アンケート調査」国土交通省資料

小規模・高齢化集落に対し、「集落元気づくり」の取組に向けた集落の状況を把握し、その状況に応じたプロセスを考慮する。例えば取組意欲がない集落には意欲を喚起するための、状況に応じた支援のあり方を考慮する必要がある。

「集落元気づくり」への取組に向けた小規模・高齢化集落の状況



寄合い(ワークショップ)を実施して判明した事項

「集落元気づくり」のための寄合いの段階整理

4集落での寄合い開催結果に基づく「集落元気づくり」のプロセス分析

参加の場の創出(0段階)

顔なじみになる

- ・ 集落の不安・資源とキーマンの把握



八重

【H20年度】

役場職員との挨拶まわりにより信頼関係が容易に築けた



瀧春山

【H21年度】

集落の世帯毎への基礎調査を兼ねた挨拶回りを実施し、信頼関係を構築する



阿多地

【H21年度】

調査項目が多いため、気軽に答えただけの雰囲気を作る



知之浦

【H21年度】

他出者団体を探し、集落支援意向を把握（お盆・正月の他出者が帰省した時の調査が有効）

気づきの誘発(1段階)

外部からの刺激

- ・ 外部の目による新たな発想・気づき



年代別・性別に分けたグループ分けにより発言しやすい雰囲気を作る



住民にとって当たり前でも、外部から見れば、資源に見える（各家庭において養蜂がされている）



過去の災害の経験談から、集落の不安を把握。お互いの安否確認が課題（当時の写真を出しての説明）



集落資源を外部者と共に確認する。船から見た自分の集落は？（外部の目から改めて指摘されて気がつく）

取組の方向性(2段階)

身近な資源の活用

- ・ 身近な資源の活用
- あるいは不安の解消



和紙の原料として昔出荷していたミツマタを利用できないか？



20年集落で運営している無人販売所を利用できないか？



住民も他出者もみんなが集まる場所を創り出すのに、集会所を活かせないか？



目の前に広がる海を活用した取組は出来ないだろうか？

自ら実行する意志(3段階)

皆をやる気にする

- ・ キーマンの取組意欲と集落の合意形成



取組の方向性が見えた時、寄合いの最後にキーマンが立ち決意を表明



寄合い参加のキーマン（周辺集落代表）との集落問題と取組内容の共有化



寄合い参加のキーマン（他出者）との取組内容の共有と信頼関係の強化



支援者も含め普段より参加者の多い寄合いに元気が出る。

具体的取組の実践(4段階)

はじめての一步

- ・ やりたいこと・できることから始める



ミツマタの採取（鉢植え・挿し木）し、集落周辺の景観づくり



集落にやぶ椿を植えて、景観づくり、養蜂に役立てたい



すばらしい海浜利用を集会所を活用しながら他出者と考えていきたい



海からみて集落のシンボルである枯れた松の植替えを他出者と考えていきたい

今後に期待

「集落元気づくり」の取組段階に応じた整理

「集落元気づくり」の実施には、集落の取組意欲や取組段階に応じた支援が求められる。外部支援の展開方策は集落の取組に向けた意向により異なる。すなわち、「集落元気づくり」への取組意向が低下するほど、外部支援がより多く求められる。

集落の意向・段階に応じた「集落元気づくり」のプロセス

「集落元気づくり」への取組意向	説明	支援方策	STEP1	STEP2	STEP3
			基礎情報収集(0段階)	きっかけづくり(1～3段階)	取組の実施(4段階)
			アンケート調査	寄合い(ワークショップ)	成功事例集
自前型集落 (取組中)	既に自らの意志により取り組んでいる集落	集落の維持活動が持続するためのアイデア・事業提供	支援の必要なし ← 支援なし →	支援の必要なし ← 支援なし →	必要に応じて集落が応募し、実施 ← 自立 →
自立型集落 (取組意欲有)	「集落元気づくり」への取組意欲があり、自立した取組が可能である集落	「集落元気づくり」のきっかけを与え、基本方針を策定	「集落元気づくり」を実施する上での生活不安と集落資源を外部からの目により把握・評価 ← 一部支援 →	「集落元気づくり」のための寄合いを集落にて開催し、きっかけを与える ← 一部支援 →	「集落元気づくり」の基本方針に応じて取組を実施する ← 自立 →
支援型集落 (取組意欲有・外部支援)	「集落元気づくり」への取組意欲はあるが、自立した取組が困難であるため、外部支援を考慮する必要がある集落	外部支援者を含め、「集落元気づくり」のきっかけを与え、基本方針を策定	集落元気づくりを実施する上での外部支援者把握 ← 一部支援 →	外部支援者も参加した上で、集落元気づくりワークショップを開催し、きっかけを与える ← 継続支援 →	外部支援者と協働で実現できる取組を実施 ← 継続支援 自立へ →
意欲喚起型集落 (取組意欲少)	「集落元気づくり」への取組意欲が少なく、自立した取組も困難であるため、住民の意欲を喚起する必要がある集落	取組意欲が少ない原因を明らかにし、その要因解決に向けた対策が可能であるか検討する	取組意欲がない原因把握 ← 継続支援 →	取組意欲が少ない原因を明らかにするため、集落住民が外部支援者を含めた寄合いを開催 ← 継続支援 →	取組意欲が喚起された後、基本方針を策定し、取組実施 ← 継続支援 自立へ →
情報収集不能型 (現時点では情報なし)	集落の現状が把握できず、引き続き情報収集が必要な集落	今後とも情報提供を行い、「集落元気づくり」の取組を集落に啓発する	基礎情報の収集が必要 ← 引き続き情報収集が必要 →	基礎情報の収集が必要	基礎情報の収集が必要

**「集落元気づくり」に求められる
多様な主体の参画と役割**

多様な主体の参画と必要とされる役割

「集落元気づくり」の展開には、取組段階に応じた多様な主体の参画が求められ、その取組体制は地域支援体制（主として身近な支援者）と外部支援体制（都市市民等）に分けられる。

「集落元気づくり」へ参画が期待される主体の能力と特徴、期待される役割と課題の整理

「集落元気づくり」のマネジメント

自治体

【期待される特性及び役割】

日常業務においても集落へ支援を行っているため、行政支援策との調整ができる
 集落に入る初期段階で、集落に信頼がある行政の関わりが必要。またその後の見守り

外部支援者(支縁)

NPO・都市市民等

【期待される特性及び役割】

地域づくりにおいて主体的な活動を行う団体・市民が増えている
 外部の目による集落資源の発掘と多様な活用策の提案

集落支援に関係する事業が増えている。
 多くが都市部で活動。
 地域づくり系活動・事業を行っている

地域支援者(地縁・血縁)

他出者

【期待される特性及び役割】

集落出身者であるため、集落住民にとっても馴染みがあり、話し合いに参加しやすい
 「集落元気づくり」の初期段階における意欲喚起と、実現化段階での支援

近隣の他出者団体であれば、行動力増加
 他出者(地縁)
 血のつながりの他、集落の思い出を共有

大学等(学識者)

【期待される特性及び役割】

地域づくりのプロセス・事例に係わる専門性やファシリテーション技術
 「集落元気づくり」のプロセス立案や事例(アイデア)提供

研究テーマと一致していれば行動力増加
 大学等(学識者)
 地域づくりのプロセス・事例に係わる専門性やファシリテーション技術

周辺集落

【期待される特性及び役割】

近隣にあるため、集落と同じ境遇にあることが多く、話し合いに参加しやすい
 「集落元気づくり」の実現化段階での取組の共同実施

距離が近いほどつながりが強い
 周辺集落

大学等(学生)

【期待される特性及び役割】

若者は集落に受け入れられやすく、話し合いに参加しやすい
 若い力で集落に元気と活力を与える他、行動力が高く、実現化段階での支援も可能

若い力を発揮し、集落に元気を与える
 大学(学生)
 若者は集落に受け入れられやすい

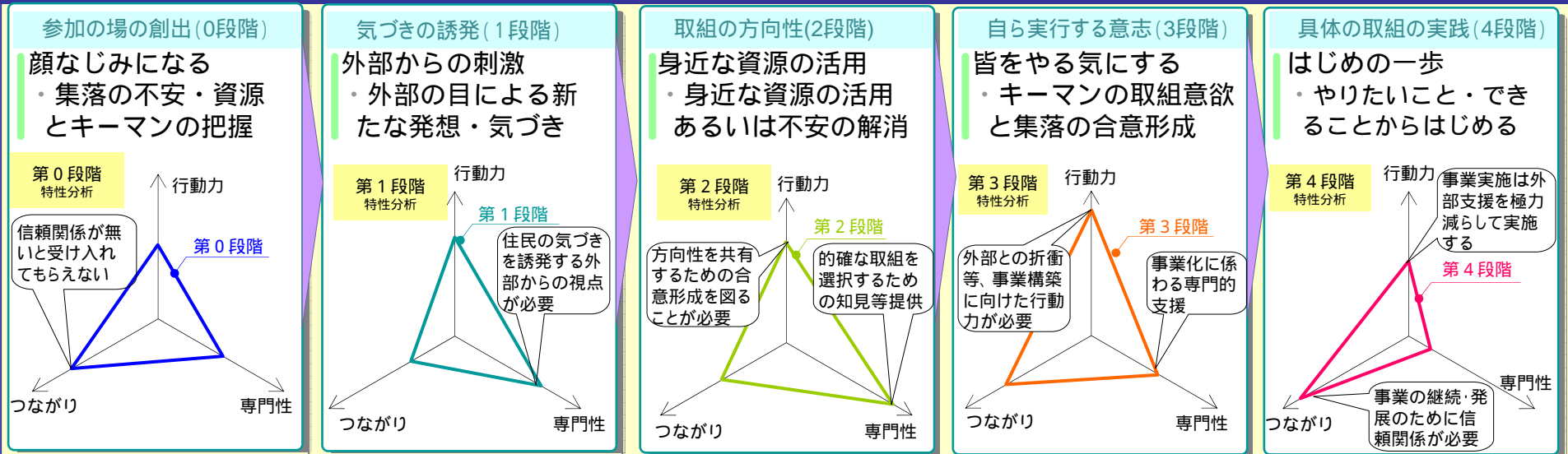
ここで示される支援者の能力は、4集落を対象として実施したことによる模式であり、絶対的な数値ではない。

地縁:集落との繋がり地理的なつながりがある団体(周辺集落や近くに存在する団体) 血縁:集落住民と血縁関係のある団体(他出者) 支縁:特に土地的、血縁的のつながりがない新たな支援団体とした

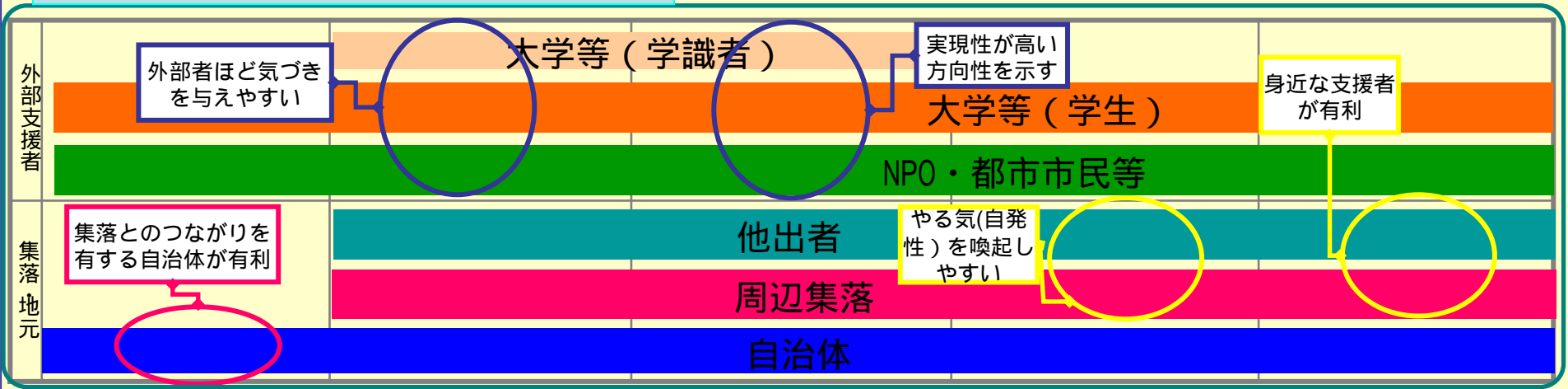
支援段階の特性

「集落元気づくり」のための寄合い開催結果から、小規模高齢化集落での「集落元気づくり」の取組段階に必要な特性を「行動力」、「つながり」、「専門的知識」の項目にまとめた。また、集落支援者が効果的に支援できる範囲を想定した。

集落支援の段階に応じて求められる特性と支援者が携われる範囲



集落支援の段階に応じて支援者の携われる範囲

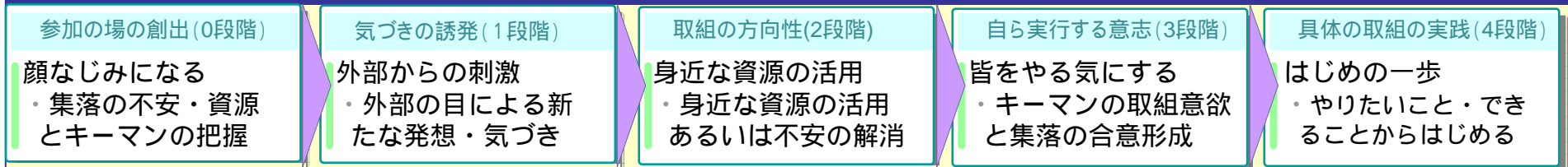


ここで示される「集落元気づくり」に向けた取組の各段階に応じた特性(必要とされる能力)は、本調査で4集落を対象として寄合いを実施したことによる模式であり、絶対的な数値ではない。

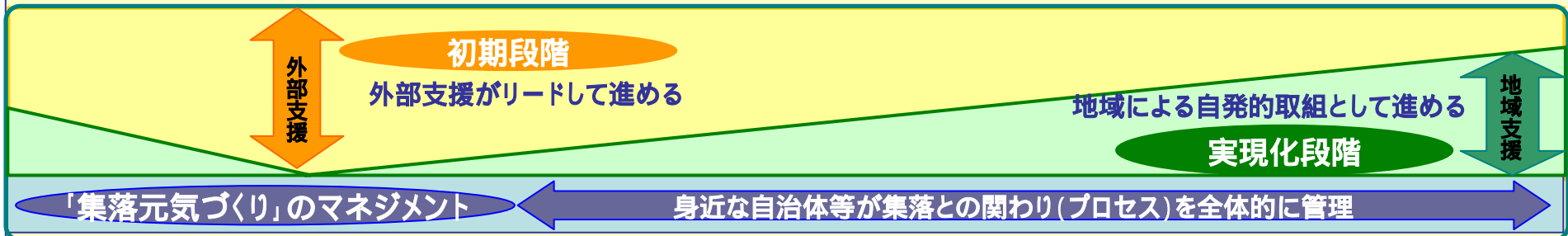
地域支援者と外部支援者の役割

第1段階から第3段階までは、外部支援者の新たな視点や高い専門性が期待される。「集落元気づくり」の初期段階においては外部支援者がリードし、実現化段階からは集落（地域）による自発的な取組へと導くことが重要である。

集落支援の段階に応じて求められる特性と外部支援者と集落の役割



外部と集落の体制構築(負担の割合イメージ)



外部支援者と集落の主に期待される役割

	0段階	1段階	2段階	3段階	4段階
外部支援者	外部支援者を集落に受け入れてもらうための信頼関係づくり	外部者の視点も交え、集落の資源と不安の情報を共有する	集落の身近な資源の活用方法について先行事例等を用いてアイデア提案を行う	実現性が高い元気づくりの取組のプロセスを示す	取組が計画通りに実施されているかを見守る(必要に応じて支援)
集落地元	集落の資源や不安を明らかにし、支援者(他出者・周辺集落)を把握	住民が普段気がつかないことに気づききっかけづくり	集落で活用可能な資源と取組内容・方法について考える	集落の活動可能な体制(身近な支援者含め)における役割分担を決める	集落内で話し合い、取組可能な事柄から実行する。身近な支援者と共に実施する

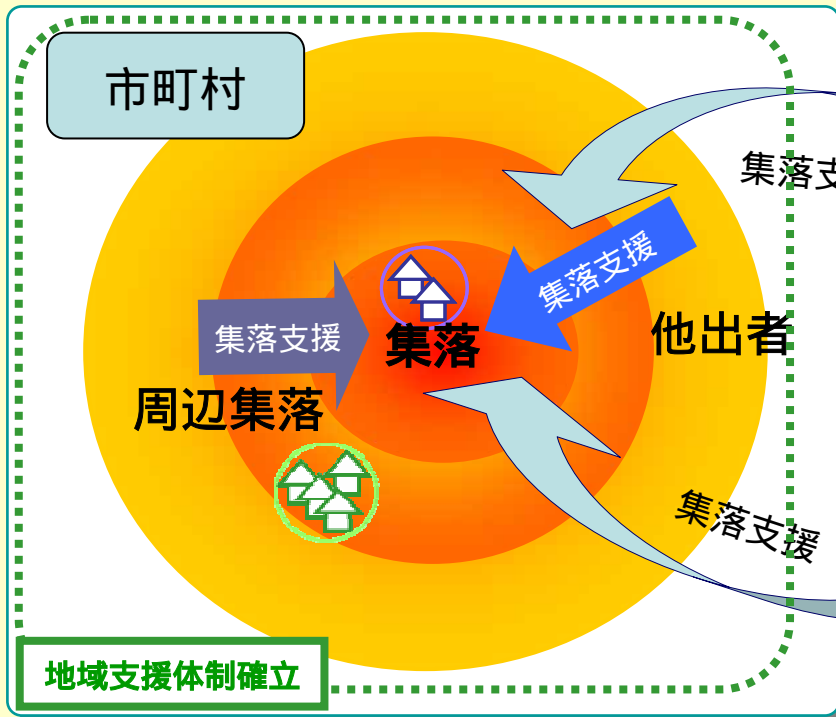
多様な主体の参画と役割

「集落元気づくり」による集落の存続・維持を考えていく場合、地域支援体制としては、集落の近隣にある周辺集落、他出者団体などが考えられる。また外部支援体制として、集落支援に携わる大学等（学識者、学生）やNPO・都市市民等といった体制による支援が考えられる。

地域支援体制と外部支援体制による集落支援のイメージ

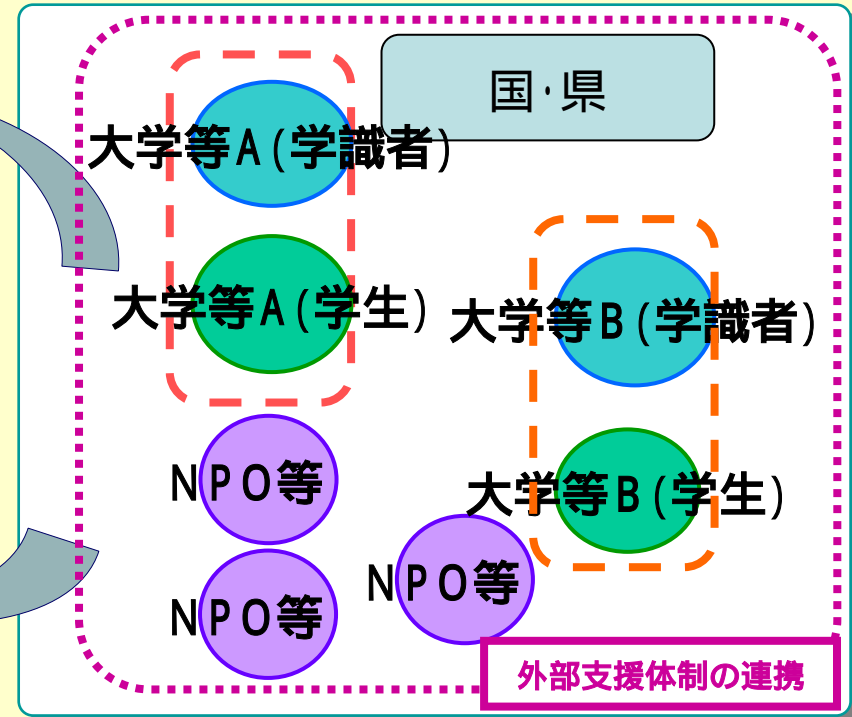
地域支援体制の役割

「集落元気づくり」の実現化段階において、集落とのつながりを活かした地域での支援体制の確立が求められる。



外部支援体制の役割

「集落元気づくり」の初期段階において、外部の目による集落への気づきの誘発や新たな発想の提案を行う外部との関わりが有効である。



【地域支援に求められる役割と課題】

「集落元気づくり」の実現化段階において、**集落とのつながりを活かした支援が求められる**。但し、取組実現に向けた体制の強化（キーマン同士の連携、集落及び支援者との合意形成）が課題

【外部支援に求められる役割と課題】

「集落元気づくり」の初期段階にて、**専門的知見に基づききっかけづくりが求められる**。但し、外部支援団体に限りがあるため、集落支援に関わる知見等（支援プログラム、先行事例）の情報共有が課題